



ばななだより

草笛学園 2026年9月号



まだまだ暑さが続きますが、それでもふとした折に、秋の気配を感じます。季節の変わり目は体調に変化が表れやすいので、ちょっとした変化にも気を配りながら、秋の入り口を楽しめるといいですね♪



「幼い子どもが何かを考えるときに、しばしば独り言のようなことばを口にしていることがあります。しゃべりながら考えているのです。～ 中略 ～五歳児になると、黙っていても頭の中でことばを使って考えることができはじめます。」(これを「^{ないげん}内言」と言います。それに対して、実際に口に出して話すことばを「^{がいげん}外言」と言います)

「内言」のちからを育てるにも、「外言」のちからを育てるにも、「内言をくぐった外言」(頭の中で一度考えてからことばにする)のちからを育てるにも、まず大事にしたいことがあります。

家庭でも、ていねいな会話を大事にしたいものです。子どもが表現する前に、何でもわかってしまうのではなく、しっかり子どもの気持ちを聞いて、子ども自身に表現させていきましょう。子どもが「エートネ」と言いかけただけで、「そのことは、先生から聞いたから」などと、話す前にわかってしまうと、子どもは言語で表現する必要がなくなってしまいます。子どもの要求を先取りしないことが大切です。

またなかには、おとながしっかり聞こうと思っているのに、うまく表現できない子どももいます。その場合は、いろいろ質問しながら子どもの言いたいことを理解した上で、それをきれいなことばに整理して返してあげましょう。保育園や幼稚園から家へ帰ってきたときに、「今日はどんなことしたの？」と漠然と聞いても、うまく表現できない子どももいます。たとえば、子どもが、「絵ヲ描イタ」と言ったとしましょう。「そう、絵を描いたの、どんな絵を描いたの？」とさらに聞くと、「運動会ノ絵」と答えたとします。「そう、今日は保育園(幼稚園)で運動会の絵を描いたのね」ときちんとしたことばでおとなが理解したことを表現してみましょう。子どもが「ウン」と答えたときには、わかってもらえたよろこびと、伝えた安心感を持っていることと思います。そういうていねいな会話を、日常生活のなかでくりかえしていくことが大事なのではないでしょうか。

ところで、何を聞いても、「忘レタ」としか答えてくれない子どもの中にはいます。そんなとき、追及するような態度で質問をくりかえすのではなく、子ども気持ちにおとなが共感して、「もっと話したい」と思えるような雰囲気をつくっていくことを心がけるとよいと思います。

子どもが表現したいと思うためには、生活の中に「感動」と「共感」が必要です。何かに感動すると、子どもは表現したくなります。そして、それを表現したときに、共感してくれるおとながいると、子どもはもっと表現したくなります。せっかく話をしても聞き流されたり、叱られたりする経験を積み重ねると、子どもはもうその人には話したくなくなってしまいます。何を聞かれても「忘レタ」ですませることになってしまうのです。

『育つ力と育てる力』 丸山 美和子 著 より

日頃の忙しさをちょっと忘れて、親子でのんびり会話を楽しむ時間を意識的に持ってみるというのもいいですね。こんなこと思ってたのか～なんて、お子さんの新たな一面を見つけることができるかもしれませんよ。



次回のばなな教室は…

ばなな① 9月3日(木) いろみずあそび

持ってくるもの : 必要に応じて着替え、水筒、上履き

10月1日(木) しっぽとり

持ってくるもの : 水筒、上履き

ばなな② 9月17日(木) いろみずあそび

持ってくるもの : 必要に応じて着替え、水筒、上履き

10月15日(木) フルーツバスケット

持ってくるもの : 水筒、上履き